純剛

一般社団法人　北師同窓会
〒002-8073
札幌市北区あいの里３条３丁目３の１
TEL 011−778−4001
FAX 011−778−4881
info@hokushi.jp

題字は　故　二本木實先生

未来につながる 純剛の精神を

副会長
中　村　吉　昭

今年度から十勝北師同窓会会長を務めることになりました。併せて５月総会において北師同窓会本部副会長を仰せつかりました。歴史と伝統ある北師同窓会の副会長ということで，身の引き締まる思いをしております。

昭和50年代，母校校舎がまだ藻岩下にあり，路面電車の音とともに学問や部活に励んだ時期を今でも昨日のように思い出します。その頃の仲間は，地区は離れてもかけがえのない「友」であり，「同士」であります。いろいろな場面で北師の絆を感じながら仕事をさせていただいております。

幸い大学卒業と同時に故郷でもある十勝に就職することができ，以来十勝の大地で仲間とともに充実した教育活動を目指して努力を続けているところです。十勝北師同窓会はOB・現役合わせて60名程の少ない人数ではありますが，会員個々はきら星のごとく才能にあふれ，豊かな教育実践を進めています。まさしく「純剛の精神」を心に秘めて研鑽・実践に励んでおります。特に近年は若手の育成に力を入れており，秋の実践研修会や１月早々に開催される帯広地区との合同新年研修会では，多くの若手会員が素晴らしい教育実践を発表し，相互研修・交流が進んでいます。まさに十勝の教育をリードするのは，少数精鋭の北師の仲間だと自負しています。

同窓会に期待されることは，まさしく相互研鑽，情報を共有して会員同士がともに学び合い，各機関の中核となって活躍し，本道教育の充実発展に資することであると考えます。悩んだとき迷ったときに支え合えるのはまさしく同窓の「絆」であります。その意義を大切にし，先輩諸氏の力も借りながら後輩を育て，微力ではありますが職責を果たしてまいりたいと思います。

後輩の育成・支援

副会長
西　野　文　敏

思えば，同窓会の存在意義を見いだせず，会費を払うだけのお客さんだった私が，平成20年度には当時の檜山支部会長がご勇退なさったため後任として動き出し，今，一般社団法人北師同窓会の副会長を仰せつかっています。

「同窓会」という古い体質のイメージを拭えないまま初めて本部の総会に出席しました。会場に入ると先輩，同僚，後輩と顔を合わせ，にこやかに会話を弾ませている姿がそこにありました。非常に心地よい風景を見ることができたものです。また，各部署からの説明を聞き，「北師同窓会」は数々の事業を展開していることがわかりました。特に，「学生への就職支援事業」で，１年生対象に行われた新入生教員採用関係ガイダンス，４年生対象に行われた自己推薦書作成・個別面接ガイダンス，３年生以下対象に行われた小論文対策等々延べ数にしてざっと1500名が参加している事業。後輩のために，これだけの事業を展開していることに感銘を受けたのです。

昨年度を見てみると，講師を派遣し，「集団面接・個別面談指導」「模擬授業指導」を行っています。研修事業にもしっかりと力を入れ，「学校経営研修資料集」（五訂版）の活用の推進，若手教員のために「学校教育基礎研修資料集」（四訂版）を作成・発行しています。

私の地区，檜山では今年度，北海道教育大学札幌校を卒業して教鞭を執っている教員を綿密に探り出し，「学校教育基礎研修資料集」（四訂版）を利用して，研修会を実施しようと計画を練っています。

「古きを懐かしむ」だけでなく，「後輩の育成・支援」の観点から，会員相互の研修・親睦を図り，北海道教育大学の教育研究の支援に関する事業を行い，北海道の教育文化の振興に寄与することを誇りとし，微力を北師同窓会のために尽くすばかりです。

地区研修会のようすから

＜札幌地区（札幌北師同窓会）＞

札幌地区は「札幌北師同窓会青樹会」主催で，７月19日に「管理職養成研修会」，９月６日に「ミドルリーダー研修会」を，ホテルライフォート札幌を会場に開催しました。

管理職養成研修会では，石﨑三千男会長より激励の言葉の後，講師より管理職を目指す参会者が心得ておくべき学校教育を取り巻く社会の流れや具体的な課題について，また，論文や面接試験についてのポイントなどをお話いただきました。またテーマごとの小グループでの討議や模擬面接など，実践的な内容をふまえた研修会になりました。

ミドルリーダー研修会では，講師よりミドルリーダーとして必要な視点や課題への取組についての提言がありました。小中それぞれの会場で５～６人の参会者に校長先生が入ってのグループ討議を行い，それぞれの学校の実状や取組を交流し合い，たくさんのヒントや刺激をもらうことのできる研修会になりました。

＜石狩地区（石狩北師同窓会）＞

石狩地区では，学校経営学習会，ステップアップ学習会，期限付学習会など，新採用から中堅までの世代を絞った学習会を開催しています。

９月20日には，北広島市ふれあい学習センター「夢プラザ」を会場に，「ミドルリーダー研修会」を開催しました。当日は秋晴れの爽やかな天候に恵まれ，石狩管内各地より集まった20名ほどの会となりました。

岩田博明会長の挨拶の後，今村敏之教頭（千歳市高台小）と石橋浩明教頭（千歳市桜木小）より，「ミドルリーダーに期待するもの～教頭の立場から～」と題した講義がありました。お二人の講師からは，自らの経験の中で出会った先輩の姿，今の立場から期待したいリーダーの姿について，具体的な話を聞くことができました。

その後のグループ討議では，各学校の取組の課題などを交流し，学校規模が違う中で，組織としてどう学校を創っていくか，そのためにリーダーとしてどうするかを考え合う有益な研修会となりました。

地　区　だ　よ　り

〈石狩地区〉

相互に研き合い，信頼される教師に

畠山　昌平（昭和54年卒）

石狩北師同窓会は，昭和25年の第１回総会以来60有余年，多くの先輩方の努力と活躍に支えられています。毎年，春の総会や秋の祝賀会には，大勢のOB会員も出席し，旧交を温めています。

私たちは，伝統の継承とともに，「新たな視点での同窓会」を目指し，様々な工夫・改善を行っています。期限付教員や新採用，青年教師・ミドルリーダーなど，全世代での学習会に力を入れています。また，将来的に校長・教頭を目指す会員の掘り起こしを行うと共に，若い会員の絆づくりの支援として，来年初めての異動を迎える新採用４年目会員を対象とした交流・研修会を新設しました。さらには，多数を占める平成卒の同期会の開催促進にも引き続き力を注いでいます。これからも，会員相互の絆をさらに深めることと共に，研き合い，切磋琢磨する場になることを目標に活動していきたいと思います。

〈札幌地区〉

同窓の絆の高まり

川嶋　英輝（昭和56年卒）

札幌北師同窓会事務局では，一大行事「大懇親会」を10月の終わりに開催しました。この大懇親会は，ご退職されている先輩会員と現職会員が一同に会する年に一度の会であり，今年度は総勢で500名を超える参加がありました。ホテルライフォート札幌を会場に開催することとなってから，初の500名超えとなりました。あいの里校舎世代の「新学生歌」，藻岩校舎世代の「学生歌」，そして会場いっぱいに全員で高らかに歌い上げた「純剛歌」。同窓の絆のもとに世代を超えての交流が行われました。今年度，大盛会となったのも，これまで以上に企画内容に工夫を重ねた「管理職養成研修会」・「ミドルリーダー研修会」を運営された青樹会の力強い意気込みと，きめ細やかな組織づくりと独自の活動を進める各区の代表理事と担当幹事の努力が結実した結果と考えています。全ての皆様に感謝を申し上げます。

〈空知地区〉

空知北師同窓会の活動

中島　琢磨（昭和56年卒）

空知北師同窓会は４月19日に今年度の総会を開催し，新役員を選任して今年度の活動方針・活動計画を決定しました。今年度は現職会員116名（校長５名，教頭９名）で活動しています。主な活動内容には，若手教員を中心とする「藻友会」，管理職による「藻岩会」，全会員対象の総会，会員研修会，退職激励会等があります。

今年度の会員研修会は，同じ同窓の士で，教育行政の最前線でご活躍されている，道立教育研究所附属理科教育センターの成田一之慎氏を講師としてお迎えして，「今，求められる防災教育～自然災害の仕組みと防災教育～」と題する講演会を行い，貴重なご示唆を頂きました。

また藻岩会では，毎年夏と冬にレポートを持ち寄って研修会を行い，日常の諸活動及び課題等について交流する中で各自が刺激を受け，相互に学び合っています。研修終了後は交流会及び懇親会を行って交流と純剛の絆を深めています。

〈後志地区〉

同窓の絆をより確かなものに

志田　純一（昭和55年卒）

６月に現職会員50名，退職会員59名，合計109名の後志北師同窓会会長の職を前会長の岡部校長先生より引き継ぎました。管理職が７名と少ない中，今年も小樽北師同窓会の応援をいただきながら活動を進めております。

例年，現職会員の参加が少なくなる中，６月の定期総会・歓迎と激励の会を終え，８月には管理職試験に向けた学習会を久しぶりに実施しました。今年度は教頭試験受験者が１名，校長試験受験者が３名おり，なんとか１名でも多く管理職になってほしいと願っております。

課題は，一般会員の参加が少ない中，年間の活動や行事の方向性を検討するということです。後志の各町村理事としっかり連携をとりながら，一人一人が参加しやすい方向性を模索し，同窓の絆をより確かなものにしていきたいと思っています。今後とも皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

〈小樽地区〉

小樽北師同窓会として，２年目へ

福田　正弘（昭和53年卒）

小樽北師同窓会では，例年，定期総会・懇親会を12月の第１土曜日に開催しておりますが，昨年から会場を，グランドパーク小樽から市内中心部にあるオーセントホテルに移して開催しました。市内中心部での開催となったためか，昨年度は参加者が来賓を含めて69名と以前より多くの方に出席いただく中での開催となりました。今年度も12月６日土曜日に開催します。

去る９月５日に行った新入・転入会員歓迎会では15名の参加で実施しました。諸処の事情で開催が遅れましたが，参加者は管理職ばかりではなく，一般教員の参加も増え，和気藹々の歓談となりました。年齢等を越えて，教育について語り合える同窓としての絆を今後も大切にしていきたいと思います。

〈函館・渡島地区〉

より一層の絆づくりを…

三上　清和（昭和55年卒）

今年２月，函館で純剛会ブロック研修会が開催されました。これは，北師出身行政関係者の会の研修です。その会の中に，本会の事務局や若手の教員７名も参加させていただきました。本庁や道研，そして各教育局の関係者から「学力向上の取組の充実」や「教育課程の充実」，そして「体力・運動能力，運動習慣の取組の充実」などについて，最新かつ豊富な資料でご説明いただきました。中堅・若手教員にとっては，またとない研修の機会を得，大変勉強になりました。恥ずかしながら私も「学校経営の現場から」と題して，現場の現状や課題について特別講話をさせていただきました。道内各地・各層において，純剛の絆が堅く結ばれていることを改めて実感した次第です。

４月には，渡島管内に５名の北師出身の新採用者が転入いたしました。今後も，世代を超えて多数の会員の皆様と研修や懇親を深め，より一層の絆づくりを図りたいと考えています。

〈檜山地区〉

新たな一歩を

白川　清久（昭和57年卒）

会員数の少なさが悩みの檜山支部ですが，「悩み」を「強み」ととらえてみることにしました。最近話題の「ネガポ辞典」を見ると，「参加人数が少ない」は，①アットホームな雰囲気を作れる②リラックスして臨める③一人一人のお話をじっくりとうかがえる，と書いてありました。実感です。

それでも，昨年の総会と懇親会には，管理職以外に若い一般教諭２名が加わって話に花が咲き，賑やかな会となりました。そこで，今年はさらに若い世代の参加者を増やすために，積極的に声をかけ，総会前の研修会も企画しました。11月29日（土）の実施に向けて，本部のご支援も受けながら，準備を進めているところです。

純剛130号の佐々木会長の巻頭言にありました「『純剛』を後輩の心に！」という言葉を胸に，同窓の新たな出会いとつながりを生み出すためにまずは50代の私たちが頑張っています。懇親会で出される日本海の幸を楽しみにしながら。

〈室蘭・西胆振地区〉

高め合い絆を強める活動を目指して

西澤　隆之（昭和55年卒）

今年度は，６月13日に来賓を含め23名の参加により支部総会・懇親会を開催し，今年度の組織体制と活動内容を決定しました。参加者には，平成以降の卒業生が増え，今年度に教職生活をスタートした若者もおり，賑やかに親睦を深めることができましたことを大変嬉しく思います。会員相互が懇親を深めることにより，次の時代を担う世代がたくましく成長してくれることを期待したいと思います。

今年度の主な事業計画としましては，定期総会（６月），東西の合同研修会（８月），忘年会（12月）があります。その他にも，年１回の会報の発行を通じた交流，現職教員を対象とした「新年会」，先輩会員を対象とした「OB会」，地区の懇親会なども行い，会員の親睦と交流を図っています。連綿と続く北師同窓会の伝統を受け継ぎ，会員相互の「絆」を強める活動を地道に続けていきたいと思います。

〈苫小牧地区〉

今年度の新たな取組

佐々木郁夫（昭和53年卒）

苫小牧地区では，１の付く日を同窓会の日として毎年６月１日総会，10月１日OB親睦会，12月１日忘年会を行っています。他に８月第４週の土曜に公園のゴミ拾いを行う奉仕活動を実施しています。今年度は新規事業を企画し，９月に現職と在宅会員によるパークゴルフ大会を開催しました。天候に恵まれ，談笑しながら好プレイやホールインワンが飛び出し，何回も歓声が上がりました。太陽の下で身体に負担の少ない軽スポーツを通してお互いのコミュニケーションを図る貴重な機会になりました。終了後，成績の発表が行われ，上位３名にトロフィーが授与されました。金銀銅をあしらったデザインで３名の皆さんは大喜びでした。幸いにも３名は全員在宅の先生でした。おかげさまで参加者一同が次回も頑張ろうという気分になり，来年も開催する予定です。今後も会員相互の親睦と交流を深め，心身の健康増進に一役買う同窓会活動を工夫します。

〈日高地区〉

若いパワーで活性化を図る日高北師同窓会

神成　　浩（昭和61年卒）

新しい「日高北師同窓会」が発足し，２年目となりました。現在会員数は60名。実働の会員は決して多くはありませんが，年１回の総会にはここ数年名古屋館長をお迎えし，楽しく交流させていただいております。管内の学校数は来年度も減少し，43校になります。管内の管理職総体が減っていく中で，同窓の管理職は増加中です。40代前半の教頭が本会の事務局長に就任して以来，若い新採用教員が会の催しに参加し，中堅教員は管理職への意思を表明し始めています。今年も６月に例年行われている会員親睦会を，同窓である新冠町教育長杉本貢氏をはじめとし，日高教育局の職員を交えて行いました。新採用教員や若年層の教員も多く参加し，各職場で同窓生が活躍している様子が伺え，たいへん有意義な会となりました。

今後も様々な場で交流を図り，会員の結束力を高めることにより，管内の教育に寄与する会として前進していきたいと考えています。

〈十勝地区〉

若手の活躍を支える北師の絆

中村　吉昭（昭和53年卒）

４月29日の十勝地区総会で選出された役員を中心に，現役35名の会員でスタートしました。「研修」「健康」「交通安全」の三大宣言を軸に，会員相互の情報共有・親睦・組織強化に努めているところです。

６月にはOB総会に併せて，OB・現役の交流会を開催し諸先輩に檄をいただいているところです。11月には若手中心の研修会で，将来有望な会員による実践発表交流を進めています。また，１月には帯広・十勝の合同新年研修会を開催し，北師同窓会佐々木会長をお招きし，ご講話をいただいています。また，この時にも３～４名の実践発表と交流・合同懇親会をもって会員相互の親睦と研修を進めています。

ここ数年は，若手中心の研修に力点を置き，組織の活性化を図っています。少ない会員数ではありますが，少数精鋭・純剛の精神で誇りをもって連帯感を深めながら活動していきたいと思います。

〈帯広地区〉

「帯広北師同窓会」

中村　勇一（昭和54年卒）

帯広地区では，４月29日に恒例の総会を行い，「帯広北師同窓会」として２年目の活動を60数名により開始しました。総会・懇親会，OBパークゴルフ交流会・現職若手の「幌都会」による札幌附属小学校研究大会派遣等を無事終了し，12月６日には研修・忘年懇親会を開催します。十勝合同研修会や，広報「藻岳」による紙面交流も継続しています。また，人事交流等により会員が漸減している関係から，組織の見直しにも着手しています。窓から月食が見えた，10月８日の役員会では，まず，逝去された大先輩のご活躍を偲び，組織検討委員会からの見直し・規約案報告と協議，そして，研修親睦会の計画…と，参加者が本会のためできることを出し合いながら，心あたたまる会議となりました。

多くの会員が気軽に参加できる工夫をしながら，帯広北師の「絆」を繋ぎ，生かしていきたいと存じます。

〈釧路地区〉

交流を深める中で

村上　正喜（昭和48年卒業）

釧路北師同窓会は，定期総会を５月か６月に１回行い，総会後に懇親会を実施しております。また，新年会は１月か２月に行い，その中で研修会を行い，その後懇親交流会を実施しております。

ここ２年くらいのことですが，新採用の養護教諭や社教主事の方も参加してくれるようになりました。これも，現役の役員の方々の日々の取組が実ってきているものと思います。現在，現役の役員５～６人で，忙しい中ですが，精力的にやってくれています。

このように新しく参加するようになってきた方々との交流の輪が，今までにも増して拡がりを見せております。大先輩も含めての交流の中で，今まで困っていた悩みや自分が実践してきたことが成果として表れてきているような気がします。

これからも，このような交流の場である同窓会でありたいものだと思っております。

〈根室地区〉

北方領土を背にして

横澤　英三（昭和58年卒）

根室北師同窓会と名称を変更し，２年目の今年度は２名の新採用会員を迎えました。しかし，５月に本会で卒業年次が最も古かった，丸山トク先輩がご逝去され，また管外転出者１名，さらに柴山能彦根室市教育長が10月いっぱいで御勇退され，現在の会員数は，現職会員28名，退職会員19名，合計47名となりました。会員の年齢は，若くなっていますが，その反面ベテラン，特に管理職は，久しぶりに教頭昇任者が１名誕生したものの，他は校長１名と寂しいのが悩みの種です。

そんな中，５月31日には「総会・歓迎会」を開催しました。残念ながら今年度の出席者は，10名とここ最近では一番少ないものとなりました。しかし，総会後は新たに採用になった１名の新入会員歓迎会を盛大に開催しました。

今後も会員相互の交流を通して，お互いに親睦の輪を広げ，一層の絆を強めていけることを願っております。

〈北見地区〉

オホーツクの地で採用になった縁を大切に

宮管　　玲（昭和58年卒）

６月１日に支部総会・懇親会を北見市のホテル黒部にて行い，支部の取組等を報告するとともに会員の近況を確認し合いました。参加者19名中，現職は６名。６名ではありますが，これからの管内教育を積極的に担う若手３名の参加が心強い限りです。そして，昭和24年卒の大先輩を筆頭に，退職校長諸兄はますますお元気です。６月28日には札幌から佐々木一壽北師同窓会長をお招きし，今年で３年目となる「新卒者歓迎会・懇親会」を開催しました。オホーツク管内３支部に赴任した新採用５名中３名，昨年度採用５名，一昨年度採用１名と管理職８名による懇親会です。卒業年度は違っても，年齢差があってもそこは同窓の絆。

オホーツクの地で採用になったこと自体が縁です。数少ない同窓の力を高め合い，キラリと輝く北師同窓会を継続発展させることが課題です。今後も様々な研修・懇親の機会を工夫し同窓の力を結集していきたいと考えています。

〈網走地区〉

近況報告

齋藤　秀之（昭和55年卒）

網走地区は，46名の会員（現職22名）で構成しており，本年６月６日に６名が参加して総会を行いました。昨年度は網走地区で４名の新採用者が入りましたが，今年度は管内３地区合わせて４名，網走地区は１名と昨年の12名から大幅に減少しました。

また，一昨年度から始めました管内３地区の新採用４年目までを対象とした「新採用者歓迎会」を，佐々木一壽同窓会長にご出席いただき，６月28日に開催しました。今年度は前段に研修を行い参加者全員で教師としての姿勢などについて，楽しく学びました。歓迎会には18名が参加し，恒例になりつつある北見オホーツクビアファクトリーで盛大に行われました。親子ほど年齢は違っていても同窓意識でつながる絆ですぐに場は盛り上がりました。このようにオホーツク管内３地区では，同窓若手・中堅に対して，次の管内教育を担う人材として育てようと活動しています。

〈遠軽・紋別地区〉

若者と共に

橋本　大（昭和60年卒）

オホーツク圏，特に遠軽・紋別地区に同窓の方々が少ないといった状況があります。それでも近年は，初任者の方々が着任されるようになりました。そこで，総会や新年会，若者との会を企画し，顔を合わせることで勇退者，現職者との交流を深める取組を続けています。

その会の中で初任者から，「授業の組み立てをどうしたらよいのだろうか」「発問が一問一答になり，子どもの思考の深まりをどうつくったらよいのだろうか」といった授業に根ざした真摯な質問を受けます。こんな教育に熱く燃える若者たちは頼もしい限りです。先輩として，できるだけ具体的に事例を挙げ，説明をしていますが，伝え切れたかどうか不安に思っています。

「鉄は熱いうちに打て」と言います。熱い若者たちに，先輩としての私たちから学びの場を提供できないか思案しているこの頃です。

〈旭川・上川地区〉

近況報告

秦　　幸雄（昭和55年卒）

旭川・上川地区は現在55名の会員（現職25名）で構成されています。現職の先生方は，各学校で子どもたちのために日々実践に取り組み，旭川・上川の教育の中心となって活躍しています。一般社団法人への移行に伴い，昨年度より同窓生への情報提供，啓発を最重点課題として取り組んできました。その結果，５月の総会・懇親会には８名の新会員が参加してくれました。

８月には同窓会だよりを発行し同窓の皆さんに活動の様子をお知らせしています。現職の先生方の学習会である藻岩会を11月に実施しました。例年通り講演会と懇親会の２部形式で，研修と親睦を図ることができました。今後は，同窓会の活動内容をさらに積極的に発信し，若年層の会員に対する研修の充実を図っていきたいと思います。また，この地区での教員採用試験に対する対策等の活動を通して同窓生の教員育成に取り組み，同窓の絆をさらに広げていきたいと考えています。

〈宗谷・稚内地区〉

近況報告

飯田　　光（昭和56年卒）

宗谷・稚内支部の会員数は約20名。相変わらず会員は広大な利尻・サロベツ国立公園の10市町村に点在しています。

宗谷でも児童・生徒の確かな学力の保障が重要な課題になっています。この課題を解決するために，個人研修はもちろん，学校組織，市町村ごと，更には管内的な研究活動の中で，教師の力量を磨く努力が始まっています。今年も「第３回宗谷管内教育研究大会」が開催されます。昨年は管内から教職員の約８割に当たる500名が稚内市に集い，相互の学校研究や授業実践を交流し合いました。こうした地道な教育研究活動を通じて，改めて「宗谷は一つ。みんなで教育研究の広場を大切にし，力量を磨こう。」という機運が一層高まっています。

会員が一堂に集う機会はあまりありませんが，一人一人が同窓としての連帯感をもち，各部署で教育研究をはじめ，地域の教育振興のために活躍しています。

〈留萌地区〉

絆をつなげて

野島　　操（昭和53年卒）

先日，留萌教育局から全教職員に留萌管内人事異動計画が配布されました。その中に，管内状況として平成22年度と26年度との比較が載っていました。学校数が40校から34校に，教職員が367名から333名に減少しています。少子化，人口の都市集中による学校数の減少は，どの地域でも見られることですが，留萌地区でも顕著です。留萌地区の札幌校出身者も徐々に減少していますが，幸いOBの皆様もご健勝で会を支えてくださるのはありがたいことです。

昨年度から留萌地区の教頭が全員校長採用となり，次代を担う教頭がいないことから，後継者の育成が大きな課題となっています。若い世代の会員が多いことから，教頭昇任試験を受ける年代がいないことが原因の一つですが，会への参加の声かけをしながら，絆をつなげていかなければならないと，新しく寄与された北師同窓会の旗を地区総会で眺めながら感じています。